伊方町議会第８０回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
加藤　智明 議員	１　認知症対策と支援について	町　長

質問の要旨

令和７年１月末日時点の住民基本台帳によると、伊方町の高齢化率は４９．７％に達しており、３，８４４人は６５歳以上の高齢者です。

厚生労働省の調査によれば、６５歳以上の認知症有病率は約６割にものぼると言われています。

認知症を発症する原因は多岐にわたり、病気や生活習慣病、加齢、遺伝、環境など様々な要因があります。認知症の進行につれて、本人だけでなく介護者の負担も増大します。

認知症者は、記憶障害や見当識障害により、時間や場所、人物の認識が曖昧になることがあり、そのため突然怒り出したり、徘徊したり、コミュニケーションが円滑に進まないことがあります。

日常生活動作（食事、入浴、排泄）が困難になるため、介護者は身体的・精神的負担が大きくなります。

また、介護費用や医療費がかかるため経済的負担も増大し、介護者は自分の時間や自由が減り、孤立感を深めることも懸念されます。

認知症者だけでなく、介護者への支援も重要です。

対策としては、

・早期発見・早期対応の推進
・家族介護者の負担軽減と支援体制の確立
・認知症ケアパスの見直しと周知
・認知症対応型共同生活介護の整備
・オレンジネットワークの体制強化
・高齢者の見守り支援の強化
・ひとり暮らし高齢者への支援体制構築

が必要だと言われております。

また、地域住民や民生委員との連携強化や高齢者見守りネットワークの構築、見守りカメラ、防犯カメラ、見守りタグ等の活用も考えられます。

今年に入り、行方不明者の捜索が２件発生しました。認知症患者かどうかは不明ですが、見守りカメラや行方不明者の写真や特徴を共有することで早期発見に繋がるかもしれません。

人口減少により、人の目が届かなくなっている現状があります。他の市町村ではカメラや見守りタグの活用を始めており、高齢者人口の多い伊方町も率先して取り組むべきだと思いますが、今現在、伊方町が取り組んでいる対策と、今後、対策の予定があるかお尋ねします。